

今月のひとこと
性器の症状は相談しにくいものですが、発見が遅れると重症化や症状の改善に時間がかかることがあります。性感染症の蔓延を防ぐためにも、気になる症状がある患者様はお気軽にご相談ください。



【性感染症(STD)とは】
性感染症(STD: Sexually Transmitted Disease)は、性交渉を通じて感染する病気の総称で、原因にはクラミジア、淋菌、梅毒、HIV(ヒト免疫不全ウイルス)感染など、多くの種類があります。日本でも近年、性感染症の感染者数が増加しており、特に若年層や性活動が活発な人々において、そのリスクが高まっています。性感染症は、無症状であることも多く、自分が感染していることに気づかないまま他者に感染させてしまう場合もあります。そのため予防と早期発見が非常に重要です。



おかみや・りょうこ
小田原市出身。2016年東海大学医学部卒業。婦人科医院に勤務。

岡宮産婦人科
副院長 岡宮 稜子

性感染症(STD)について

いのちひろば

連載 (86)

毎月1回、中旬の水曜日に掲載

【日本における性感染症の現状】
厚生労働省によると、近年、クラミジアや淋病、梅毒の患者数が増加しています。

1 性器クラミジア感染症

性器クラミジア感染症は2022年には国内で3万人以上の感染者が確認されています。このデータは、実際には無症状の感染者も多いため、感染者数はもっと多い可能性があります。クラミジア感染は男女とも性的活動の活発な若年層に多いですが、特に女性でその傾向が目立っています。無症状(男性の50%、女性の80%は無症状)であることが多く、気づかずに感染を広げてしまうケースが多いです。感染が進行すると、不妊症や骨盤内炎症性疾患を引き起こすことがあるため、早期に発見し、適切な治療を受けることが非常に重要です。

2 淋病

淋病も日本で増加しており、特に若い男性に感染が多いことが報告されています。淋病の症状は、男性では排尿時痛や尿道からの膿性分泌物、女性ではおりものの増加や下腹部痛などですが、無症状のこともあります。放置しておくと、不妊症や骨盤内炎症性疾患を引き起こすことがあるため、早期の治療が必要です。

3 梅毒

梅毒は近年再び増加傾向にあります。2022年の感染者数は約13,000人で2002年と比較すると約30倍にも増えています。初期症状としては小豆〜指先くらいの大きさのしこりができます。梅毒は進行すると、神経や内臓に深刻な影響を与えることがあります。梅毒は、早期に治療を受ければ完治が可能ですが、感染を放置すると後遺症が残ることがあります。

4 HIV(ヒト免疫不全ウイルス)感染

HIV感染者数も年々増加しており、2024年には新たに6,000人以上が感染したと報告されています。中でも同性間性的接触によるものが患者数の63%を占めています。HIVは、免疫系に重大な影響を与え、治療が行われない場合、AIDS(後天性免疫不全症候群)を引き起こす可能性があります。しかし、現在では抗HIV薬が発展しており、早期に治療を受けることで感染者の健康を保ち、他者への感染拡大を防ぐことができます。

【性感染症の予防、早期発見・治療のために】
性感染症は適切な予防策を講じることで感染を防ぐことが可能です。感染症のリスクを減らすためには、以下の予防方法を実践することが大切です。

1 コンドームの使用

コンドームは、性感染症の最も効果的な予防方法の一つです。性交渉時には必ず使用しましょう。コンドームは、性感染症を予防するために非常に効果的です。コンドームを正しく使用することで、感染のリスクを大きく減らすことができます。

2 一度に複数のパートナーと性交渉をしない

複数のパートナーとの性交渉は、性感染症のリスクを高めます。感染のリスクを減らすためには、一度に複数のパートナーと性交渉しないことが大切です。特に、パートナーが性感染症に感染している場合、他のパートナーへの感染を広げる可能性があります。

3 定期的な検査

性感染症は、無症状であっても感染している場合があります。そのため、定期的に性感染症の検査を受けることが大切です。特に、複数のパートナーとの性交渉がある場合や、症状が気になる場合は、早期に検査を受けましょう。性感染症の検査は、クリニックや保健所で受けることができ、無症状であっても早期に発見できることがあります。

4 早期の治療

もし性感染症に感染した場合、早期に治療を受けることが重要です。性感染症は、治療を受けることで簡単に治すことができることが多いですが、放置すると不妊症や他の健康問題を引き起こすことがあります。また、うつし愛を防ぐためにも本人の治療だけでなくパートナーの検査、治療も重要です。症状が現れた場合や、感染が疑われる場合は、すぐに医師に相談しましょう。

【まとめ】

性感染症は、予防することが可能な病気です。万が一感染してしまった場合でも、早期に治療を受けることで、健康への影響を最小限に抑えることができます。自分自身やパートナーを守るために、性感染症に関する知識を深め、予防策を実践することが大切です。

今回は6月中旬に「働く世代の介護問題」についてを掲載します。

小田原医師会より住民の方々へ

小田原市休日夜間急患診療所の体制について

小田原市休日夜間急患診療所

休日や夜間に急に発症した方の診療を目的とした一次救急の医療機関です。軽症の患者様を対象としていますので、症状によっては、重症患者様を受け持つ「二次救急病院」へ受診していただくことになります。応急処置を目的としていますので、受診後はかかりつけ医を受診するなど適切な医療を受けてください。

〒256-0816 神奈川県小田原市酒匂2-32-16

☎0465-47-0823 駐車場(第1~4)あり

<https://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/nighttime/>

診療科と受付時間

※ 12月29日~1月3日の6日間は休日の診療をします。

	平日(夜間) 午後7時~同10時	日曜・祝日(昼間) 午前8時半~同11時半 午後1時~同3時半	土曜・日曜・祝日 (夜間) 午後6時~同10時
内科	○	○	○
小児科	○	○	○
耳鼻咽喉科		○	
眼科		当番日のみ	
歯科		日曜・祝日(昼間) 午前9時~同11時半 午後1時~同3時半	

〈上記の問合せ先〉

小田原医師会地域医療連携室
☎0465-47-0833

月曜~土曜(日曜、祝・休日、12/29~1/3休み)
午前9時~正午/午後1時~午後5時

医療機関検索は
小田原医師会のサイト
から利用できます

<https://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/>



小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町の方対象

5月						
日	月	火	水	木	金	土
				1 13:30~14:30 内科	2 13:00~14:00 小児科	3
4	5	6	7	8	9 13:30~14:30 耳鼻科	10 14:30~15:30 産婦人科
11	12 13:00~14:00 内科 循環器科	13 13:00~14:00 内科	14	15	16 13:15~14:15 内科	17
18	19 13:30~14:30 腎不全 循環器科	20 13:00~14:00 内科	21 14:30~15:30 小児科	22	23 13:30~14:30 内科	24
25	26	27 13:30~14:30 内科	28 13:30~14:30 内科	29	30 13:15~14:15 皮膚科	31

6月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2 13:00~14:00 内科 循環器科	3 13:00~14:00 整形外科	4	5 13:30~14:30 内科	6 13:00~14:00 小児科	7
8	9	10	11 13:30~14:30 内科	12	13 13:15~14:15 内科	14 14:30~15:30 産婦人科
15	16	17 13:00~14:00 内科	18 14:30~15:30 小児科	19	20 13:30~14:30 耳鼻科	21 13:30~14:30 内科 神経内科
22	23	24 13:30~14:30 内科	25	26	27 13:15~14:15 皮膚科	28
29	30					

小田原医師会地域医療連携室では、医師による電話相談を行っています。無料です。事前にお電話ください。

小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町の病院・診療所についてつぎのようなお問い合わせにお答えしています。このような時には小田原医師会地域医療連携室までお電話ください。

地域医療連携室の活動

